



認定特定非営利活動法人(認定NPO)

# インド福祉村協会

会報  
2008.4.1  
Vol.15

## India Welfare Village Society News

ホームページ <http://iwvs.web.infoseek.co.jp> (ボランティア 募集中)  
特定寄付金に税制上の優遇措置が認可

更なる日本  
の皆様のご支  
援とご協力を  
お願いいたし  
ます。

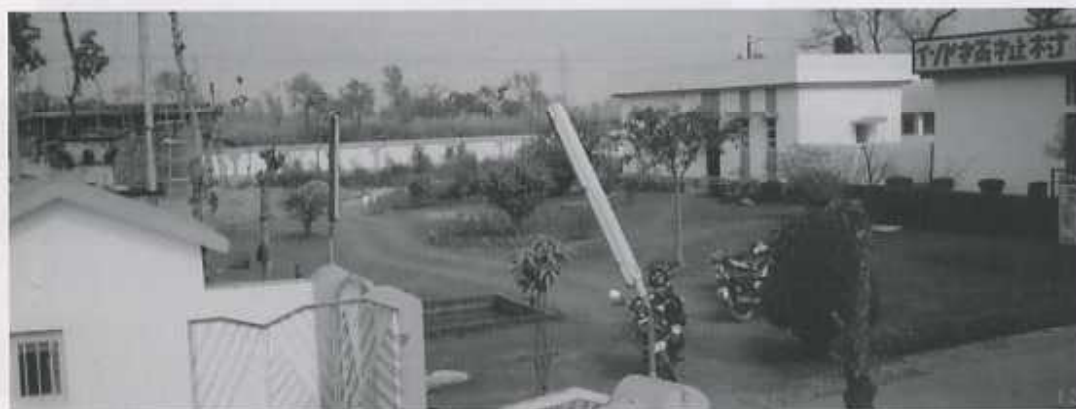
1998年11月開院以来、日本の多くの方々とインドの関係者の協力により、インドの人々に医療を提供できたことに深く感謝しております。

開院9年目、2007年(平成19年)度は23、600名の患者が訪れ、9年間で18万人の人々に貢献できました。

2007年9月にはJICA草の根技術協力による「北インド農村民への保健衛生教育と人材育成」が開始され、基礎的保健衛生の知識普及と感染症の予防・軽減が期待されます。



(2008年1月アーナチャル病院)



(2008年最近のアーナチャル病院)

### インド福祉村病院(現地名 アーナチャル病院) 開院10年目...新事業の開始

クシナガラ(北インド・UP州)

みんなの力で  
みんなの幸せを

理事長 山本孝之

インド福祉村病院は、皆様方のご支援に支えられ、開院10年目を迎えることができました。この間、インドの貧しい農村部落の人々の健康と幸せを守る努力を続けてまいりました。昨年からは、JICAとの業務委託契約により保健衛生教育と人材育成の充実をめざした新しい取り組みも始まりました。

発展著しいインドですが、都市部と農村部の格差は、以前にもまして顕著になっています。ぜひ皆様のご協力とご支援を、今後ともよろしくお願い申し上げます。



(福祉村病院で研修をするグプタ先生)

# 感謝の10周年

柴田昌雄（インド福祉村協会理事）

皆様方のご支援によりインド福祉村病院（現地名アーナンダ病院）は開院以来、今日（3月末現在）までの9年4か月間に延べ185,000名の患者さんを治療することが出来ました。本当に有難うございました。

この10年間の実績を踏まえて次の10年を充実、発展の時期と位置づけ努力して行く考えであります。今後とも更なるご支援を賜わります様お願い申し上げます。

合 掌

## 病院建設より今日まで（11年間）の歩み

1997年1月	病院建設起工式	2003年11月	開院より5年間で72,000名の患者を治療する
6月	トヨタ財団より患者輸送救急車の寄贈	2004年3月	顧問、飯島宗一先生逝去
1889年3月	病院建物落成式	2005年1月	認定NPOとして国務庁長官より認定される
8月	グプタ医師着任 感謝状贈呈式（関係者、建設業者に対して） 以降仮診療を開始 現地マネージャー、G-レマン氏着任	6月	外務省NGO支援無償資金よりX線フィルム自動現像器など設置
11月	正式に開院、診療開始	7月	トヨタ自動車より多目的輸送車の寄贈を受ける
12月	ポリオワクチン接種開始	11月	グプタ医師結婚式
1999年2月	外務省草の根資金による医療機器提供の署名式 これにより最小限の医療機器が整備された	2006年10月	スイテイ看護師交通事故にて逝去
6月	郵政省国際ボランティア貯金交付の署名式 以降5年間にわたり交付を受ける マラリヤ、結核、喘息、患者に無料治療を開始	2007年9月	JICAプロジェクト（草の根協力支援型）の事業開始
2000年9月	インド福祉村協会NPO法人の認証を受ける	11月	開院より9年間で173,000名の患者の治療を行う グプタ院長夫妻JICAプロジェクトによる研修のため訪日
2001年4月	グプタ医師研修のため訪日	2008年2月	JICA支援により教育ホール（スイテイ記念ホール）落成式
6月	外務省草の根資金により超音波診断装置が設置される		
7月	レイヌカ女性医師着任		



（1997年病院建設工事）



（1997年病院建設工事）



（1998年開院当時のアーナンダ病院）



（2008年最近のアーナンダ病院）

### 【南アジア】



### 【インド クシナガラ周辺の主要都市】



（シルシア部落）

### 現地住所

ANANDA HOSPITAL TEL : 91-5564-217544 / 91-5564-292935

住所：VILLAGE SIRSIA DIST KUSHINAGAR 274403.UP.INDIA

# 開院9年目のあゆみ

アーナンタ病院院長 P.N. グプタ

日本の皆様のご支援とインド福祉村協会のご尽力により開院9年目(平成19年度)は、過去最高の23,600名の患者を診察することができました。これも長年の職員の努力とインドの人々の厚い信頼関係が築かれた結果と  
 思い、感謝しております。

2007年9月にはJPP事業の公衆衛生教育も始まり、プロジェクトリーダー加藤伸也先生の指導のもとに職員が積極的、自主的に講習を行い村民が喜んで教育ホールに来てくれつつあります。11月には私と妻と子供を日本の衛生教育研修に招待頂き、本当に有意義な日本訪問でした。お世話くださった皆さん、ありがとうございます。日本の皆様ぜひアーナンタ病院へお越しください。

## 【来院患者疾患名(上位)】

1位 気管支喘息	6位 関節リウマチ
2位 胃潰瘍	7位 ウイルス感染症
3位 貧血	8位 筋肉痛
4位 トリコモナス症	9位 高血圧
5位 気管支炎	10位 肺結核

## 【風土病的疾患】

1) マラリア	6) アメーバ赤痢
2) フィラリア病	7) 甲状腺腫
3) ハンセン病	8) 狂犬病
4) カラアザール	9) 蛇毒
5) 日本脳炎	10) 象皮病

## 【患者数】

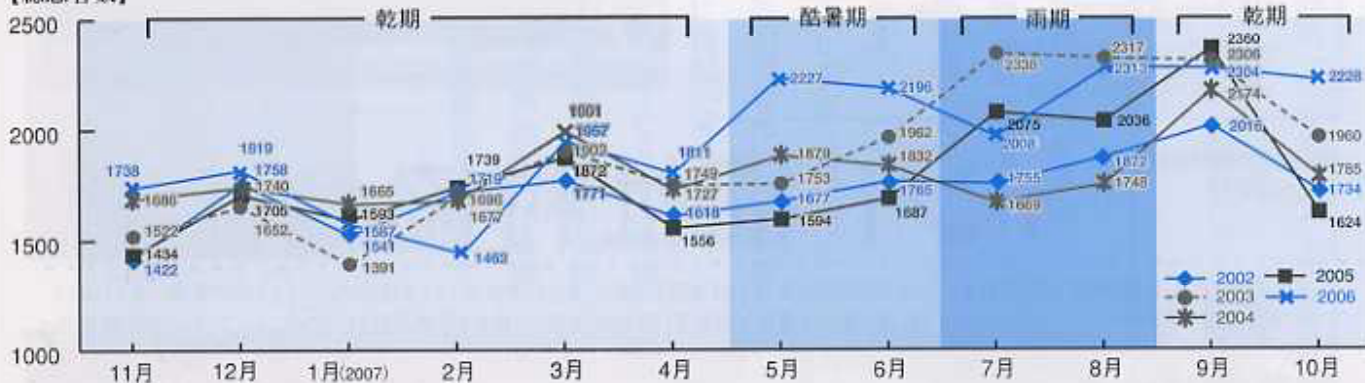
	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
総患者	15,310名	21,140名	18,606名	16,910名	20,636名
新来患者	6,756名	7,946名	6,247名	5,593名	7,547名
再来患者	8,554名	13,194名	12,359名	11,317名	13,089名

	6年目	7年目	8年目	9年目	統計
総患者	22,578名	21,573名	21,275名	23,650名	181,678名
新来患者	8,191名	8,274名	8,143名	9,227名	67,924名
再来患者	14,387名	13,299名	12,800名	14,423名	113,422名

男性 36% 女性 64% 小児 10%

## 【総患者数】



(福祉村病院研修)



(福祉村病院の皆様)



(福祉村病院にて)

2007年11月11日、11月19日「保健衛生教育と人材育成」の事業のための日本研修を行いました。

現地リーダー グプタ医師  
 現地サブリーター ニディヒ氏

大竹純一(理事)

## JPP事業日本研修報告

福祉村病院(豊橋)福祉村病院内長寿医学研究所  
 ・瀬戸保健センター・愛知医科大学

・長久手町保健センター・医療法人生寿会かわな病院  
 右記各施設で日本の保健衛生の基礎的役割を見学研修し、日本の感染症予防対策と妊婦母子健康手帳の活用を勉強して頂きました。

ニディヒ氏はインドとの大きな違いを実感し、グプタ医師は感染症に対する最先端の遺伝的学問の考え方、コミュニティヘルスセンターの健康への取り組み等、非常に興味深い分野の研修を受け、大変有意義な内容であったと感激されておりました。

またグプタ医師は、インド帰国後直ちにアーナンタ病院研修ルームで、妊婦指導と検診、保健衛生教育を開始しました。今後は、この体験をふまえて他職員の研修も行う予定です。今回の日本研修は大変有益であった事をご報告致します。



(福祉村病院にて)

## 2007年のあゆみ

07.5月	IWVS理事会・通常総会
7月	JICA中部ネットワーク連絡会参加(大竹祐一/加藤伸也/武田和敏) 第1回ワーキンググループ勉強会 JICA草の根事業・インド政府認可
8月	JICA草の根支援業務委託契約
9月	JICA草の根支援事業開始 IWVS理事会 加藤伸也(JICA事業P・マネージャー)現地病院派遣
11月	さわらび文化祭バザー参加 第2回ワーキンググループ勉強会 Dr.P.N. Gupta P.Nidhi 日本研修 毎週金曜日妊婦生活衛生指導開始 毎日病院待合室手洗い保健衛生基礎ビデオ上映開始 教育ホール建設開始 加藤伸也(医療専門員)ニューデリーJICA研修会参加
12月	IWVS理事会 GRPサハラ住宅(Dr自宅予定)購入
08.1月	大竹祐一(理事)現地病院訪問 山野井純子(ヒンズー語教師)他、子供衛生指導
2月	教育ホール落成式 加藤伸也(PM) 柴田昌雄(理事)落成式出席 来賓 佐々木結(JICAニューデリー事務所) チャン(クシナガラ保健衛生責任医者) 大竹祐一(理事)JICAネットワーク連絡会・PDM研修会参加 加藤伸也(医療専門員)ニューデリーJICA研修会参加
3月	第3回ワーキンググループ勉強会 IWVS理事会・臨時総会 Gopal Prasad(コック)結婚式



(ワーキンググループ勉強会)



(ワーキンググループ参加者)

認定特定非営利活動法人  
(認定NPO)

# インド福祉村協会

(IWVS)

インド福祉村協会は、民族、宗教を超えて日本とインドの両国民が共通の価値観を共有し、互いに学び合うことを理念として、インド国の医療に恵まれない人々に対して、プライマリ・ヘルスケアを中心とする診療活動と保健衛生活動及び不就学児童らに対する教育活動を行うことによって、インド国の医療の充実及び幼児教育の充実を図り、もって両国の友好に寄与することを目的としています。診療活動としてクシナガラにてインド福祉村病院(アーナンダ病院)を開設、運営を行っています。



## 入会のお願い

- 正会員: 年会費 5,000円** ..... 総会の議決権があります。協会の会報を毎回お届けします。プロジェクトの進み具合、現地の情報を逐次お知らせします。現地宿泊の便宜を図ります。
- 特別会員: 100,000円(100以上)** 代表一名を正会員として登録します。その他正会員と同様。
- 賛助会員: 年会費 1,000円(100以上)** 総会の議決権はありません。協会の会報をお届けします。

### 【会費・寄附の支払い方法】

**郵便振替** 郵便振替用紙を利用し、最寄りの郵便局より手続きを行う。  
ご一紙いただければ用紙をお送り致します。また、入金が確されましたら領収書を送らせていただきます。寄附金は、税制上の優遇措置が受けられます。  
郵便振込(口座番号)00830-2-65008 (加入者名)インド福祉村協会

## 募金のお願い!

少しでもあなたの善意を  
分けて下さい。

インド福祉村協会 (INDIA WELFARE VILLAGE SOCIETY)

理事長/山本孝之(さわらび会理事長)

常務理事/中村義博(株)トラベルサライ社長) 理事/柴田昌雄(愛知学院大前教授)

理事/高木元昊(前慈恵寺住職) 事務局長/武田和敏 ほか

ホームページ/ <http://iwvs.web.infoseek.co.jp> E-mail/ [iwvs@post.sala.or.jp](mailto:iwvs@post.sala.or.jp)

■発行者 インド福祉村協会 (IWVS)

■発行人 大竹祐一 ■編集協力 文創社

■インド福祉村協会事務局(若葉荘内)

〒441-8124 愛知県豊橋市野依町山中19-12

TEL:0532-48-1138 FAX:0532-48-2365